

新1年生が元気に登校 夢と希望を胸に学校生活をスタート

4月9日——。今年度から船越小学校と統合した山田小学校(佐々木哲也校長、児童448人)では、入学式が行われ、新1年生80人(男子41人、女子39人)が元気に登校しました。入学式では、ちょっぴり緊張した様子で入場してきた子どもたち。上級生や父母らが温かく見守る中、名前を呼ばれると「ハイ」と大きな声で返事をし、一礼する立派な立ち振る舞いを見せていました。今年の新入学児童は町内全体で94人(男子50人、女子44人)。夢と希望を胸に新しい学校生活をスタートさせました。



悩み相談の大切さなどを学ぶ こころの健康講演会に59人

3月28日、町主催の「こころの健康講演会」が町中央公民館小ホールで開かれ、町民59人が参加しました。当日は岩手医科大学精神科医の西田亘さんが「こころの健康について」をテーマに講演。心の病気(うつ病や不安症など)は誰でもなる可能性がある病と紹介し「悩みは誰にでもあるもの。一人で抱え込まず、周りの人たちに相談することが大切です」と強調しました。参加者らは何度もうなずいたり、メモを取ったりと心の病気の予防方法や社会参加の大切さなどを学んでいました。

船越半島を巡るジオイベント クイズ形式で町の歴史学ぶ

三陸鉄道に乗り船越半島を巡る「三陸ジオトレイン in 山田船越半島」が3月24日に開かれました。これは三陸ジオパークの魅力を感じ、興味や関心を持ってもらおうと三陸ジオパーク推進協議会などが開催したもので、当日は、町内外から約20人が参加。津波の教訓が刻まれた津波碑や鯨と海の科学館などを巡り、町の歴史などのクイズを解きながら楽しく歩く参加者の姿が見られました。宮城県から参加した福土幸真さん(中学1年生)は「山田町の歴史に興味を湧きました」と話していました。



(株)テルコーポレーションと協定締結 災害時に宿泊施設を提供し支援

町では、船越地区に「ビジネスインやまだ」を運営する(株)テルコーポレーションと災害時の宿泊施設提供の協力協定を締結しました。これは災害発生時に高齢者や障害者などの要配慮者が避難を余儀なくされた場合、同社がホテルへの宿泊や入浴場所などを提供。町が食料や水、おむつなどの備品を準備し、避難者へ提供を行うものです。嶋田農代表は「万が一災害が発生した場合、避難を余儀なくされた皆さんが安心して生活を送れるように支援の準備をしておきます」と万全な対応を誓っていました。



町のわだい

今月の題字 小原 ^{かいと}快斗さん（豊間根小4年）



ジャガイモ詰め放題に挑戦する子どもたち



磯汁お振る舞いの様子



親子連れでにぎわう「かきくけ公園」

「おいすた」初イベントに1万2千人 催し物に施設内にぎわう

開業から初イベントとなる「おいすたフェス」が3月16日と17日に道の駅やまだ「おいすた」(関口健駅長)の施設内で開かれ、町内外から訪れた約1万2千人でにぎわいました。イベントでは、磯汁^{たけし}が無料で振る舞われたほか、子ども限定に行われた「キッズジャガイモ詰め放題」や先着50人限定の「カキ剥き体験」、町内のキッズダンスチームのパフォーマンスなども行われ、大勢の人たちがさまざまな催しを楽しんでいました。会場を訪れた関根楓人^{ふうと}さん(山田小2年生)は「たくさん外で遊べて楽しかった。また遊びにきたいです」と満面の笑みを浮かべていました。

三陸鉄道開業40周年イベント 記念列車をホームでお出迎え

県沿岸を走る三陸鉄道(株)が4月1日に開業40周年を迎え、特別ヘッドマークを付けた記念列車が盛駅(大船渡市)―久慈駅(久慈市)の全163キロを運行しました。当日、陸中山田駅では記念イベントとして、郷土芸能団体の境田虎舞やゆるキャラのヤマダちゃんタケちゃんがお出迎え。駅のホームには、町内外から大勢の人が集まり「おめでとう」や「これからも頑張ってください」などの温かいエールがかけられました。釜石市からお祝いに駆け付けた四宮結愛^{あづな}さん(小学2年生)は「見るのができてうれしかった。次は列車に乗ってみたいです」と目を輝かせました。

